「平泉の文化遺産」の寺社を知ろう！

世界遺産登録に向けた調査が無事に終了しました。それに伴い、さまざまなことを尋ねられる機会も多くなってきています。このコーナーでは、「平泉の文化遺産」を構成する寺社について、それぞれの立場から分かりやすく解説します。

第８回
毛越寺の延年（二）

二十日夜祭を語るときに、忘れてはならない人がいます。その方は、毛越寺を開かれた慈覚大師円仁という人です。円仁は下野（栃木県）の生まれで、比叡山に登り伝教大師最澄の弟子となりました。比叡山での長い修行を経て、45歳の時仏法を求めて中国〔唐〕に渡ります。中国には足かけ10年滞在しますが、その間文殊菩薩の聖地である五台山や長安の都を訪れています。五台山では天台の教えを修めるとともに、念仏三昧（常行三昧）を伝授されました。また長安では日本にまだ伝えられていない最新の密教を学んでいます。旅の後半は武宗による「会昌の破仏」という仏教弾圧に遭い、大変な苦難の末やっとの思いで日本に帰ってきました。その道のりをつづった「入唐求法巡礼行記」という日記が残されていて、玄奘の「大唐西域記」やマルコポーロの「東方見聞録」ともに世界三大旅行記と呼ばれています。これは、当時の事件や風俗を知る一級の史料です。円仁は帰国後、延暦寺第三代座主に就任して天台宗の発展に尽くされました。死後その功績に対し、我が国で初めて朝廷より「慈覚大師」という大師号を贈られました。

円仁が伝えた念仏三昧は、不断念仏へとつながり、後の浄土教の発展に大きな影響を与えました。現在二十日夜祭で行っている「常行三昧供」法要は円仁が五台山より伝えたものであるといわれ、毛越寺だけで伝承されてきた独特の旋律と節回しの声明が唱えられます。また常行堂および修法の守護神である摩多羅神は、円仁帰国の船に現れた神様であるといわれており、作神（農耕の神）としての信仰と相まって祭礼の中心的役割を担っています。

毛越寺　藤里　明久

常行堂内陣

平泉を掘る

発掘最前線⑫
―中尊寺跡第73次・伝大池跡の調査―

中尊寺の「伝大池跡」は、月見坂入口から町道戸河内線を登りきった所で、その中にある大きな杉などの樹木が根を張る高まりが、池の中島の跡です。

昭和39年（1964）、平泉遺跡調査会による中島跡の発掘調査が行われ、中島は盛土によって築かれており、西側には景石が残ること等が報告されています。

北から見た中島跡（右上）と73次調査区

73次調査は過去の調査範囲や中島に架かると想定される橋跡などを確認する目的で行いました。

調査の結果、奥州藤原氏時代の中島の一部と池跡の底が確認できましたが、橋跡の有無は不明でした。

12世紀以後、泥がたい積して池全体が浅くなったことが分かったほか、江戸時代に中島の北側で大掛かりな盛土工事を２度行ったことが、盛土の下位から出土した遺物や層位によって判明しました。中島北側を盛土した後、南北方向の溝を掘り、これを再び埋めて北側の一角を囲むようにＬ字形の溝を掘っています。

中尊寺に伝わる寛永18年（1641）の古絵図には、大池跡付近に「池」、その北に「弁才天」と記してあります。検出した溝跡との関連が注目されます。

文化財センター　菅原　計ニ

式典、講演会で祝う 長島小が統合30周年

長島小学校の統合30周年記念式典が11月17日、来賓、教職員、児童、父母ら約400人が出席して同校体育館で行われました。

式典では、岩渕清文実行委員長の式辞、澤藤校長のあいさつに続き、歴代校長、ＰＴＡ会長、学校の教育振興功労者に感謝状を贈呈。実行委から同校に記念品が贈られました。５、６年生によるマーチングも披露され、新たな飛躍が誓われました。

式典後、韓国出身の漆工芸家全龍福（チョン・ヨンボク）さんによる「地域文化の大事さ」と題した記念講演も行われました。

美しい音色で魅了 馬頭琴コンサート

平泉国際交流協会の「もっと知りたいあの国第５章・モンゴル―草原の風に乗って。“馬頭琴”」が11月16日、平泉郷土館で開かれました。

中国内モンゴル自治区出身のバヤラトさんと妻サローラさんが、馬頭琴の演奏、モンゴルの踊りなどを披露。約160人の聴衆を魅了しました。

交通死亡事故ゼロ２年 町に県警から賞賛状

町は11月14日で交通死亡事故ゼロ２年を達成し、県警本部長から賞賛状を受けました。

伝達式は16日に役場で行われ、吉田尚邦一関警察署長から高橋町長へ賞賛状が手渡されました。高橋町長は「町民とともに全力を尽くし、さらに記録を伸ばしたい」と決意を述べました。

万が一の火災に備える 町内２会場で消防演習

秋の全国火災予防運動の一環として11月９日に長島小、16日に平泉小を会場に、町消防団の秋季消防演習が行われました。

町消防団員、一関西消防署平泉分署員が出動し、実戦さながらの消防訓練を繰り広げ、児童たちは、キビキビとした動作で校庭に避難。防火への意識を高めていました。